

経皮的カテーテルアブレーション後の左房食道瘻の発生率、診断、予後に関するグローバル調査

済生会熊本病院では、医学の発展のため患者さんの診療情報等を使用し、本研究を実施しております。ご質問や利用停止等のお申し出は、「問い合わせ先」へご連絡下さい。

研究実施体制

代表研究機関 リューベック大学付属病院/シュレスヴィヒ・ホルシュタイン大学
医学部教授・博士 ローランド・ティルツ

共同研究機関 済生会熊本病院 循環器内科 特別顧問 奥村賢（研究責任者） 他

研究の目的と方法

カテーテルアブレーション治療の肺静脈隔離術は、心房細動患者を治療するための有効かつ安全な戦略となっていますが、まれに左房食道瘻(AOF)という重大な合併症が発生します。発生率は研究によって異なりますが、0.0016~0.07%の範囲と推定されています。しかし過小報告されている可能性があり、真の発生率はまだ不明です。この重大な合併症は、高い死亡率と関連していますが、発生率や最適な管理および転帰に関するデータはほとんどありません。最大の世界規模の調査は2015年に実施され、31人の患者が登録されました。しかし、現在までに、心房細動アブレーションの総数は大きく増加し、さらにアブレーション技術も向上したため、情報を更新する必要があります。そこで世界規模でAOFの発生率、最適な管理、転帰を評価する研究に当院も参加しています。

診療を通じて得られた情報を使用し、新たな検査や調査をお願いすることはありません。

研究の対象となる方

2015年1月~現在までに当院でカテーテルアブレーション治療を受けられ、左房食道瘻を発生した方

使用する試料・情報

年齢、性別、身長、体重、既往歴、内服薬、心房細動の種類、アブレーションに使用した材料・技術的な情報、合併症の種類、治療詳細、転帰など

研究予定期間

研究実施許可日~2023年3月31日

個人情報の取り扱い

収集した情報は個人情報を削除し、データ管理機関であるシュレスヴィヒホルシュタイン大学へ提供します。秘密保持を義務付けられている研究チームのメンバーのみがこれらのデータへのアクセスを許可されています。各研究機関から得た情報から、研究代表者のリューベック大学心臓センターのローランド・ティルツ教授（医学博士）が解析・検証を行います。

（当院の個人情報管理責任者）済生会熊本病院 院長 中尾浩一

研究への協力について

研究目的にご自身の診療情報等を利用・提供されることを希望されない場合は、研究対象とせず、利用・提供を停止すると共に、収集した情報等も可能な限り削除します。本研究への協力は患者さん治

療とは関係が無く、ご協力いただけない場合も患者さんに不利益が生じることはありません。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を
閲覧することが出来ます。

問い合わせ先

済生会熊本病院 特別顧問 奥村 謙

住所：熊本市南区近見5丁目3番1号 電話：096-351-8000(代表)